

北九州市ほたる館におけるカスミサンショウウオの飼育下繁殖①

北九州市ほたる館 鶴澤 拓哉

1、はじめに

カスミサンショウウオは九州地域に分布しているとされている日本固有の小型両生類である。近年まで西日本地域に広く分布しているとされていたが、2019年、遺伝子研究により九州の一部（福岡県、佐賀県、杵岐・福江島を含む長崎県、熊本県、鹿児島県）の個体群のみが種名「カスミサンショウウオ」となった。福岡県では、絶滅危惧Ⅱ類（福岡県レッドデータブック2014記載）に指定されている希少種であり、県内でも保全活動が行われている。

今回は、令和2年度より始動したカスミサンショウウオの飼育下繁殖プロジェクトについて報告する。

2、目的

このプロジェクトは以下の二つを大きな目的とする。

①「カスミサンショウの継続的な展示飼育」

産卵→孵化→上陸→成熟→産卵のサイクルを飼育下で実現することによって消費的な展示飼育ではなく継続的な展示飼育ができることを目指す。

②「北九州市産カスミサンショウウオの保全」

産卵した卵を全て飼育せず、一部を親個体の産地に放流することにより市内産のカスミサンショウウオの保全を目指す。

3、概要

まず横90cm×奥行60cm×高さ20cmの大型のコンテナに、腐葉土を敷き、水場となる容器を入れ、ほたる館東側の野外スペースの日陰に4月8日に設置した。（写真1）

カスミサンショウウオは北九州市産の個体7匹（推定雄2匹、推定雌5匹）を4月11日に導入。（写真2）



写真1 繁殖水槽

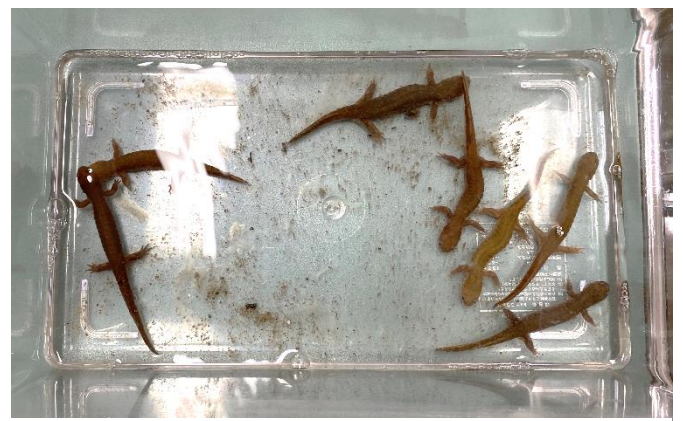


写真2 親個体となるカスミサンショウウオ

日々の管理は、不定期での①水場の水替え、②エサとなる生物（ミミズ・ダンゴムシなど）の補充と合わせて、定期的な個体数の確認にとどめ、出来る限り自然環境に任せた状態にした。

与えた生物はほたる館の花壇やほたる館横の熊谷公園で手に入る、ミミズ、ダンゴムシ、コガネムシの幼虫が中心となる。

4、経過

カスミサンショウウオの繁殖期は 12 月から 4 月といわれているが、地域差があるため近隣の山田緑地での繁殖時期を参考にすると 1 月中旬から 2 月下旬に繁殖行動をするのではないかと推測される。

繁殖行動の一つとして雄が水中に縄張りを作り、雌を待つという行動があるが原稿を書いている 12 月時点では確認できていない。

12 月 5 日に個体数確認をしたところ、導入した 7 匹は全て生存しており、うち性別は不明だが、水場に 3 匹が身を寄せていた。（写真 3、4）

水場の認識はできているようなので、産卵を期待して待ちたい。



写真3 水場で身を寄せる
カスミサンショウウオ



写真4 その他の4匹は陸上で
隠れていた

<参考文献>

関慎太郎・井上大輔，2019，魚部 ギョビる特別編集 特盛山椒魚本 めくるめくサンショウウオ&イモリの世界，NPO 法人北九州・魚部（ギョビる編集部）

（うざわ たくや 会員）